

NPO 森からつづく道 平成 28 年度事業報告

I. 概要

平成 28 年度は当団体にとって 4 期目となった。

サイエンスカフェ★えひめは、初年度より自主事業の柱と位置付けており、本年度もほぼ隔月で 6 回開催することができた。幅広いテーマで、多様な研究者にご協力をいただき、生き物の生態・生息環境・人との関わりに及ぶ情報提供があり、自然について学びを深める機会として定着してきた。

昨年度実施した「松山市北条地域の生物多様性を支える 人材育成と農地保全・交流人口拡大プロジェクト」（環境省・協働の加速化事業）は、本年度も企画申請が採択され、2 年目に取り組んだ。昨年度の協働の体制を継続し、北条地域の自然の恵みをはじめとする魅力について、地元の団体・企業等が来訪者に伝えるツアーなどを企画・実施することができた。新たに企画した「風早生きもん DAYS」では、昆虫をはじめとする生き物の専門家や NPO とともに、子供たちに身近な生き物に関心を高めてもらおうと、観察会や講演会、クラフトづくりなどを実施した。ただし、子供たちの参加は予想を下回り、企画内容の検討とともに、継続の必要性を痛感することとなった。

昨年度北条地域で実施した希少種・オオキトンボの産卵の観察会をきっかけに、生息環境の維持・保全の必要性が高いと考えたことから、同種の生活史とため池の水管理との関係を明らかにし、地域住民が主体的に保全に取り組むことを目指し、「松山市北条地域のため池＋田んぼにおける生物多様性を解明する、農作業&生きものカレンダープロジェクト」を企画、本年度は現地調査に重点的に取り組んだ。同種の産卵行動や幼虫が生育に適する環境が、ため池の水管理による水位の変化によって生じている状況を解説するカレンダーを完成させた。平成 29 年度より 3 年計画で、調査と啓発活動を継続する方針である。

【主催事業】

- 1 松山市北条地域の生物多様性を支える～人材育成と農地保全・交流人口拡大プロジェクト
- 2 松山市北条地域のため池＋田んぼにおける生物多様性を解明する、農作業&生きものカレンダープロジェクト
- 3 サイエンスカフェ★えひめ

*主催事業以外では、小澤氏を中心に、大三島の自然を守る会をはじめとする NPO や企業、行政、小学校、公民館などと、自然観察会、理科の授業、コケ玉教室などを企画し、講師を担当。また、助成金の申請や事業運営など、自然分野の中間支援的な役割を担った。

II. 各事業報告

1. 松山市北条地域の生物多様性を支える 人材育成と農地保全・交流人口拡大プロジェクト

松山市北条地域生物多様性地域連携保全活動計画が平成 27 年 9 月より施行された。この事業は地域連携保全活動計画実施の一環と位置付け、松山市環境モデル都市推進課をはじめ地元組織との協働により、昨年度に引き続き実施した。里地の保全の担い手となる人材の育成、北条の魅力体験エコツアー、循環型農業見学ツアーを 3 つの柱として企画。人の暮らしと自然との関わりが豊かである、北条地域の魅力とその保全の必要性を共有する機会づくりを行った。

- ・環境省・地域活性化に向けた協働取組の加速化事業（委託事業）
- ・事業規模：245 万円（委託事業収入）

【目標と事業の組み立て】

目標	H27 事業	H28 事業
地域住民（主に旧北条市民）に対する啓発、保全の機運醸成	(1) 人材育成事業 ・ トコロジスト養成講座 ・ ふるさとの自然観察会・6 回	(1) 人材育成事業 ・ 「風早生きもん DAYS」開催 ・ 生き物一斉調査の実施 ・ ふるさとの自然観察会・2 回
広域住民（主に旧松山市民）に対する啓発、交流人口の拡大	(2) 「北条の魅力体感モニターツアー」の実施・2 回	(2) 「北条の魅力体感エコツアー」の実施・2 回
里地の保全のために、農業への関心を高め、農地の維持につなげる	(3) 風早有機の里づくり・循環型農業見学ツアーの実施（キャベツ収穫体験版・タマネギ収穫体験版の 2 回）	(3) 風早有機の里づくり・循環型農業見学ツアーの実施（キャベツ収穫体験版・タマネギ収穫体験版の 2 回）
情報発信拠点づくり		関係者・参加者の反応を踏まえ拠点づくりの可能性を探る

1. 人材育成事業

(1) 「風早生きもん DAYS」の開催

日 時：平成 28 年 8 月 19 日（金）・20 日（土）・21 日（日）

場 所：北条ふるさと館（松山市河野別府 995）

【展示】

■内容

- ・北条地域の生き物の紹介パネル、標本、実物
- ・北条地域の小学校の生き物研究発表作品など
- ・生き物の保全・観察などに取り組んでいるグループの活動紹介パネル
- ・松山市北条地域生物多様性地域連携保全活動計画の概要パネル など

■出展団体

- ◆小学校 (4) ◆自然の保全・自然体験の提供に取り組んでいる団体 (8)・個人 (1)
- ◆大学 (2) ◆行政関係 (3) ◆中間支援組織 (2)

【クラフト・ゲーム】

- ◆風早の生きもん釣り堀ゲーム (松山市都市環境学習センター)
- ◆竹を使ったクラフト<竹筒の鉛筆立て・カタツムリ・トンボなど>づくり (えひめ森の案内人会)
- ◆折り紙・切り絵の生きものづくり (森からつづく道)

【講演・観察会】

実施日	内容	講師	参加人数
8/19	立岩川生き物観察会	愛媛大学理学部生態学研究室	17人
	セミ博士になろう!	今川義康氏 NPO法人西条自然学校	約30人
8/20	トンボのお話し	杉村光俊氏 (公社) トンボと自然を考える会 常務理事	27人
	トンボ観察会	久松定智氏 愛媛県生物多様性センター	15人
8/21	身近にいる生き物のお話し	前田洋一氏 愛媛県立とべ動物園	45人

【成果】

- ・子どもたちがセミ・トンボ・魚・へび・カメなどにたっぷりと触れる機会となった。
- ・準備したクラフトの材料 500 個がすべて使われたことから、3 日間で 500~550 人の参加があったと推測される。
- ・出展・観察会・講演を通して多数の組織の協力を得た。当方の目的を知ってもらい、各組織の活動内容を知る機会となり、相互の信頼関係を作ることができた。
- ・北条地域の小学校における生き物・自然に関する取組状況を把握することができた。
- ・北条地域に魅力的な生態系があることが地元の人に伝わった。
- ・地元の団体と専門家が知り合う機会となった。

【課題】

- ・豊かな自然が周辺にある学校が多いが、生き物について踏み込んで知る機会が少なく、子どもたちの生き物に対する関心は低い。参加しやすい小さな機会を重ねていくことが必要と考えられる。

(2)「ふるさとの自然観察会」の実施 (2回)

- 第1回「立岩川生き物観察会」(風早生きもんDAY Sの中で実施)

日 時：平成 28 年 8 月 19 日（金）9：00～10：30

場 所：立岩川水辺公園

参加者：17 人

【内容・振り返り】

愛媛大学理学部生態学研究室の学生 3 人に講師を担当してもらい、網・バット・水槽を借りるなど、全面的に協力を得て、魚を追い込んで捕まえたり、箱眼鏡で水中をのぞいたりして観察や体験を楽しんだ。生き物の探し方を知ってもらえたこともよかった。

■第 2 回「雄甲山・雌甲山の自然」

日 時：平成 28 年 11 月 23 日（金）10：30～14：00

場 所：善応寺～雄甲山・雌甲山

参加者：13 人

【内容・振り返り】

ふるさと館に集合、河野氏の歴史の概要を説明した後、善応寺に車で移動し、途中畑や道端の植物などを観察しながら登山口～雌甲山山頂へ。眺望を楽しみながら昼食。安山岩の植生やイオアブラギクを観察。尾根伝いに雄甲山山頂へ移動し、柱状節理の地形の観察、ガーネット探しを体験した。

風早活性化協議会事務局など関係者に多くご参加いただいたので、雄甲山・雌甲山をはじめとする北条地域の低山を地域資源としてどう捉えるか考えてもらう機会となった。

(3)「生きものさがし」の実施

【目的】

- ・子どもたちがこの活動を通して自然の中に面白いものがたくさんあることに気づき、自然に関する興味を高める。
- ・昔は身近に多く見られた生き物の中には見つけにくくなったものも少なくない。子どもの参加によって分布図を作ることで、現時点での記録を充実させることができる。

【実施方法】

- ・10 月末に北条地域 7 小学校の全児童に 6 種類の生き物探しの調査用紙を学校経由で配付。
- ・6 種類の生き物を見つけたら調査用紙の地図（学校別）に場所をマークして提出する。
- ・子どもが自主的に参加するものとし、調査用紙の提出は自由とした。
- ・調査期間は 11 月 1 日～30 日。学校に設置した「生きもの調べポスト」に投函。
- ・回収した調査用紙から、北条地域の地図に生き物の分布図を作成し、小学校に掲示。

【結果等】

・回収率は全体で 1 割弱にとどまった。小規模校の回収率が高かった。先生方は協力的であり、当方の意向を汲んで子どもたちに取組を薦めてくださったが、授業の位置づけではなく自由参加であったため、子どもや親にとって優先順位が低かったものと考えられる。

・参加した子どもたちからは、「ふだんは草や虫を見ないけど、いろいろな種類の植物や虫が居ることが分かりました。また探してみたいです」「こんなに身近にいっぱい生きものがあるということが分かりました。とくにコセンダングサの種が多かったです」などの感想があり、参加によって生き物を見つける感覚が養われたことがうかがえた。

2. 北条の魅力体感エコツアーの実施

【ねらい】 広域住民（主に旧松山市民）に対する啓発、交流人口の拡大

- ・旧松山市民が北条地域における自然と人の暮らしが調和している様子や、産物を知る。
- ・日常的に北条地域へでかけ、自然を楽しんだり、産物を購入するきっかけになる。
- ・旧松山市との交流人口の増加につながる。

【概要】

- ・エコツアーを2回実施。1回はバスを借り上げ。
- ・北条地域の自然に親しむ機会＋海産物加工や伝統野菜の担い手訪問＋歴史に触れる機会
- ・各所で地元の方が解説する。
- ・参加者には終了後にアンケートに答えてもらう。

【参加者募集、広報】

- ・小型バス程度、22人を募集。
- ・広報まつやま（全戸配布）に募集記事を掲載。チラシを作成し、公共施設に設置。風早活性化協議会のHPに掲載。

(1) 第1回 鹿島周遊エコツアー とっておき！鹿島の魅力ざんまい&レトロまちあるき

★この回は、バスを使わず、現地集合で徒歩移動（まちあるき）することによって、資金をかけない実施にチャレンジし、今後の継続実施をねらった。

日 時：2016年10月23日（日）10：00～16：00

行 程：松山市北条支所東駐車場・集合＝レトロまちあるき＜「花へんろ」の舞台、永井製材所の蔵、永野商店（乾物）＞＝（渡船）＝鹿島＜北条鯛めしの昼食、自然観察、展望台から河野氏まつり狼煙見学^{のろし}＞＝鹿島周遊船＝鹿島＜鹿の角切り見学＞＝（渡船）＝北条支所東駐車場・解散

【参加者】24人（男性11人、女性13人）、運営者＋関係者：16人

【参加者の反応】（アンケートより）

- ・満足／やや満足／やや不満／不満 を選択してもらい、その理由を記入してもらった。満足が16人（73%）、やや満足が5人（23%）、やや不満が1人（5%）であった。
- ・満足の理由では、ゆったり・ゆっくりすごせた（3人）、個人では（普段では）体験できない内容だった（4人）などがあげられた。
- ・ガイドの数を増やすとよい、食事のグレードを上げるとよいという意見があった。

・やや不満と回答したのは、10歳未満の男子で、鹿島周遊船の感想として「寒かった」と記入があり、季節の変わり目で前日より寒かったこと、子どもにとっては受け身の内容が多かったため、退屈したことも考えられた。

・各コンテンツに対して充実した感想が記入された。特に鯛めしは味が高評価であった。

【反省点】

・まちあるきと自然観察においては、総勢40人になったため列が長くなってしまい、ガイドが複数欲しいという感想があった。ガイドを2人体制とするとともに、出発時に集合して見所の紹介をしたり、途中集合してじっくり解説を聞いてもらうなど、メリハリが必要だと感じた。

・鯛めし昼食については、量が少なかったという感想も複数あった。参加費を抑えたために、おかずの品数も少なかったためである。家族が複数参加する場合は、参加費を抑える必要があるが、参加費を上げて昼食を充実させてほしいという感想が見られ、参加者層によって参加費の設定を検討する必要があることを実感した。

(2) 第2回 冬の風早 ほっこりエコツアー

★この回は昨年度に実施した難波地区の「庄だいこん保存会」をコンテンツの中心にして、普段は訪れる機会の少ない難波地区の滞在を通して、自然との関わりが豊かな暮らしを体感する機会とした。借り上げバスを利用。

日 時：2017年1月29日（日）9：30～16：00

行 程：松山市役所正面入り口・集合＝立岩川河口野鳥観察＝庄だいこん保存会＜庄大根づくしの昼食・懇談・収穫体験＞＝十輪寺・庄薬師堂＜国重文仏像見学＞＝山田屋まんじゅう本社訪問＝松山市役所・解散

【参加者】26人（男性7人、女性19人）、運営者＋関係者：7人

【参加者の反応】

・満足／やや満足／やや不満／不満 を選択してもらい、その理由を記入してもらった。満足が22人（81%）、やや満足が5人（19%）で、やや不満・不満の回答は無かった。

・現地の方が温かく迎えてくれたことを、満足の理由に挙げた人が複数あり、地元の方がそれぞれに説明してくださったことが、満足度を上げたことがうかがえた。

・自然と歴史に触れられてよかったとの感想も複数あり、北条ならではの滞在となった。

3. 循環型農業見学ツアーの実施

昨年度とほぼ同様の内容で、北条地域で風早有機の里づくり推進協議会によって実践されている循環型農業の現場（下記カコミ）を小型バスで巡るツアーを2回実施した。今年度は、農業関係の学科がある高校、愛大農学部、愛大社会協創学部などにも昨年度の実績を踏まえて早い段階から声をかけたことにより、農業や循環型社会に関心の高い若者層の

参加を多く得ることができた。

●スーパーフジ夏目店：食品残渣を分別、腐敗を防ぐため冷蔵庫で保管→●ロイヤルアイゼン：フジから食品残渣を受け入れ、熟成させた堆肥を製造→●OCファーム：ロイヤルアイゼンの堆肥を使った野菜を生産→フジの店頭で地元産野菜として販売

OCファームでは、野菜の収穫を体験させていただき、その後、難波地域活性化センターで、それぞれの取組の詳細や思いを話してもらい、参加者に「農業の維持発展に消費者がもっと取り組んだらよいこと」などについて、考えてもらった。

①第1回 OCファームにてキャベツ収穫体験（1月14日）

・参加者23人（男性17人、女性6人）＋関係者8人

②第2回 OCファームにてタマネギ収穫体験（3月4日）

・参加者21人（男性13人、女性8人）＋関係者8人

【振り返り】

・フジ、ロイヤルアイゼン、OCファームの各所の取組現場では、迫力と説得力が感じられ、参加者の意欲が高かった。さらに話題提供の時間に、パワーポイントで丁寧な説明があったため、理解と共感が深まった。

・本年度は見学・収穫体験後の各団体からの詳細説明の前に、当該循環型農業のリサイクルループの意義について、自然界と比べて話題提供を行った。また、農地の維持が生物多様性の保全や防災などに貢献することの情報提供を行った。

・松山市は市民一人当たりのゴミ量が少ないとされているが、社会として食品ゴミの処理にどう取り組んでいるのかを市民が具体的に知ること、さらなる情報提供が必要と感じた。

★H27・28年度 全体を通しての成果

①受け入れ側・参加側の双方がプラスの経験

3つの事業はいずれもイベント型であり、受け入れ側にとっては自分たちの活動を伝える機会となり、伝わる手応えを得た。参加者にとっては、初めて訪ねた・知った、おいしかった、勉強になったなど、相互にプラスの経験をもたらすものであった。

②地域のプレイヤーを増やす試みとなった

生物多様性の恵みは、食や伝統などの豊かさを生活の中で実感することによって、保全の必要性を認識するものであり、地域の人が現場で自分と自然との関わりを伝えること（伝えることの担い手：プレイヤーとなってもらうこと）が有効であることが確認された。

③行政との協働による効果

行政との協働取組であることによって、イベントの実施にあたり、地域内外からの信用

を得やすかったことがメリットであった。また、地元の人や組織とつないでもらえたこと、広報に係る協力、イベントの当日運営におけるマンパワーの提供などを得て、内容の充実を図ることができた。

④北条地区まちづくり協議会との信頼関係が2年間かけて深化

H28年度第1回エコツアーは北条地区まちづくり協議会のフィールドで行った。河野氏まつりのコンテンツを活かした企画となり、この日・このツアーでしか体験できない内容となったため、満足度のアップにつながった。まちあるきでは製材所の築100年の蔵の見学、乾物店の訪問・商品購入など、多彩なまちの魅力を盛り込むことができた。

⑤エコツアーの可能性・必要性の共有

4つのエコツアーを企画・実施し、エコツアーの可能性をまちづくり協議会・風早活性化協議会と共有することができた。北条地域には生物多様性に加え、伝説も豊富で、古墳や平安期の仏像、中世に活躍した河野氏の歴史や山城跡など、数多くの物語性の高い史跡が住民に大切に引き継がれていることが実感され、参加者の反応を通して、地域資源の質の高さを地元の人が再認識する機会となった。

特に食は海産物や里地の産物とともに、醸造会社・酒造会社など調味料も地元の味が引き継がれており、たいへん好評であった。食はもっと発信し、昼食・夕食をとって滞在してもらう企画を検討すると良いということ、コンソーシアム連絡会でも確認した。

★次年度以降の展開

当団体が風早活性化協議会・環境整備部会に加わり、事業企画・運営の一端を担い、協議会の活動の一環として、エコツアーや自然観察会を実施する予定である。

「風早生きもんDAYS」は夏休みなどの恒例行事になることを目指しており、会場としては、子どもが日頃から出入りする「北条児童センター」が適していることから、松山市環境モデル都市推進課の参画を得て児童センターと実施を検討する。

2. 松山市北条地域のため池+田んぼにおける生物多様性を解明する、農作業&生きものカレンダープロジェクト

松山市北条地域のため池には、全国的に絶滅が懸念されているオオキトンボが比較的安定的に生息しており、ため池の水管理が同種の生活史に合致していることが大きな要因と考えられている。しかし、農業従事者は同種の存在を認知しておらず、同地域のため池は改修工事が順次進められており、大幅な減少や絶滅の危険が少なくない状況である。

そこで、本事業では、年間の水管理によって生じる環境を、オオキトンボをはじめとする生きものたちがどのように利用しているかについて、住民が具体的に知り、ため池を

む農地を適切に維持し、身近な生きものを保全する機運が醸成されることを目的に、調査と啓発のための活動を行った。

- ・地球環境基金助成事業
- ・事業規模：1,040,000 円（助成金収入 1,000 千円、自主財源 40 千円）

【事業実施概要】

- (1) 調査対象のため池を 2 地区の計 5 ため池として調査内容を検討した。
- (2) 5 月末から 2 月末まで現地調査を実施し、オオキトンボの羽化から産卵までの個体数および発生活長を把握した。同時に植物、水位変化も調査した。
- (3) 各ため池管理者から池干しや草刈りなどの聞き取りを実施した。
- (4) (2)・(3) の調査結果を 1 枚の図にまとめたパンフレット「ため池&田んぼと生き物ごよみ」とその解説書・資料編を作成した。
- (5) これらの結果はため池管理者に報告するとともに、2 月 24 日の「第 18 回サイエンスカフェ ため池管理が希少トンボを育む」を開催し、一般の方型への報告を行った。

【成果・課題】

- ・「ため池&田んぼと生き物ごよみ」を作成し、ため池管理・農作業によって生じる年間の環境変化を、オオキトンボが利用して生息している状況を具体的に把握することができた。
- ・ため池の直接的な関係者である管理者と県農地整備課においては、ため池の適切な管理がオオキトンボの保全に重要であるとの認識が高まり、具体的に改修工事にも反映された。しかし関係者以外の地域住民への情報提供は一部にとどまった。
- ・地域住民対象の観察会は 3 回を予定していたが 1 回の実施にとどまった。トンボの調査・同定は専門的な知識と技術を要するため、養成が必要であることが判明した。

【今後の展開】

- ・平成 29 年度以降は、3 年計画の「オオキトンボの里づくりプロジェクト」として、生き物の専門家とため池管理者・地域住民との連携を深める活動を計画。
- ・調査は本 NPO が主体となって継続して実施するが、愛媛県生物多様性センターや愛媛大学農学部昆虫学研究室、理学部生態学研究室などの参画を得て、調査対象の生物種を広げ、調査を担う人材の養成を兼ねて、発展させる方針である。
- ・観察会の開催および田んぼとため池の生きもの携帯用図鑑(生き物下敷きなど)の作成により、小学生をはじめとする地域住民の関心を高めることを計画している。最終年にはオオキトンボ保全計画が策定され、将来的には住民による保全活動によってオオキトンボをはじめとする里地の生物多様性が保全されることを目指す。

3. サイエンスカフェ★えひめ

年間を通してほぼ隔月で実施。今年度は第 14～19 回を開催した。

- ・事業規模：33 千円（参加費収入、自主財源より）
- ・基本的に、奇数月の第 2 あるいは第 3 火曜日、19：00～20：30
- ・愛媛大学女性未来育成センターに共催をいただき、愛媛大学にて実施。
- ・参加者数は平均約 20 人。参加費は 200 円。

【目的】

専門家等が調査・研究で得た最新の話題を提供することにより、生き物の生態の特徴や生息環境についての理解を促し、生物多様性への関心を高め、自然と和する暮らしの実践につなげる。

【実施内容】

開催日／テーマ／話題提供者	内容
第 14 回 5 月 17 日（火） 「薬と植物」 ■ 瀧野裕之氏（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター 栽培研究室 室長）	瀧野氏が植物採取のために来松した機会を捉え、登壇していただいた。身近な薬用植物とその効用とともに、植物の毒について具体的な植物と中毒例の紹介がされた。また、世界の薬用植物、麻薬植物についても解説があり、植物の有する可能性に興味が高まった。薬用植物資源研究センターの植物資源の収集・保存・研究などの役割も紹介していただいた。
第 15 回 7 月 19 日（火） 「建設コンサルによる、生物多様性へのとりくみ」 ■ 五十嵐美穂氏（日本工営株式会社 名古屋支店所属）	建設コンサルタントの立場で、「希少植物のための実験田んぼづくり」や「営農田んぼで希少種の保全と農業の両立の試み」など山鳥坂（大洲市）における実践、地域との協働によるモニタリングや維持管理など、最前線の取組をご紹介いただいた。コンサルで環境保全を担うことの重要性が伝わり、今後の活躍に期待を持たせていただいた。
第 16 回 9 月 20 日（火） 「植物は環境を語る」 ■ 福田達哉氏（高知大学農学部准教授）	様々な花の形は、植物が長い歴史の中で環境と調和してきた産物と考えることができる～との導入から、植物がシカなど大型草食獣の被食圧によって、トゲの密度や長さを発達させたり、盆栽化・矮小化が起こるなどの調査事例を紹介していただいた。学生とともに各地を調査されている様子も興味深く、サイエンスカフェ史上最も熱いお話しぶりに引き込まれた。

<p>第 17 回 11 月 22 日 (火) 「愛媛に産するキノコたち」 ■小川尚志氏 (きのこアドバイザー、愛媛きのこ観察会副会長)</p>	<p>愛媛県では、約 1200 種余りのキノコが記録されている。キノコの分類や繁殖の過程などとともに、毒のあるキノコ、食べれば死亡するキノコ、美味しいキノコ、光るキノコなど、わかりやすい切り口で、自然の中に生えている様子の写真を豊富に使って紹介していただいた。愛媛きのこ観察会の野外観察にぜひ参加したいという感想が聞かれた。</p>
<p>第 18 回 2 月 24 日 (金) 「ため池管理が希少トンボを育む」 ■久松定智氏 (愛媛県生物多様性センター嘱託研究員) ■森からつづく道</p>	<p>今年度、森からつづく道は里地の動植物が農作業による環境変化をどう利用しているかを解明する P J を、北条地域で開始。メインとなる調査は、平地のため池に生息する希少種・オオキトンボの生活史とため池の水管理との関連の解明であり、調査手法と結果、考察を提供し、里地の生き物について、地元の人・農業従事者にどのようにすれば興味を持ってもらえるか、意見交換を行った。</p>
<p>第 19 回 3 月 21 日 (火) 「生きもの・生態へのアプローチ～愛大大学院生 2 人による研究発表～」 ■吉見翔太郎氏 (理工学科博士後期課程 環境機能科学専攻) ■河原萌恵氏 (同前期課程)</p>	<p>■「愛媛県におけるヤリタナゴーマツカサガイ共生系について」(吉見氏) ■「脊椎動物の脳の進化」(河原氏) 研究のテーマ設定、調査方法、結果、考察と整理された発表をしていただき、各分野での研究の深化をうかがい知ることができた。学生の発表・質疑応答の機会を設けることは、発表者・参加者の相互に大いに資すると感じられた。</p>

Ⅲ. 組織運営

1. 意思決定

・事業の企画・運営については、松井・小澤・黒河が必要に応じて打ち合わせを行った。観察会の企画にあたり、アイデアや情報が必要な場面では、会員に適宜協力を求めた。

2. HP、ブログ、情報発信

・HPについては、引き続き渡辺奈央氏の尽力により、サイエンスカフェやスーパーサイエンスカフェ、循環型農業見学ツアーなどの告知情報を適時掲載することができた。
・「もりみちブログ」では日々出合った生き物に関する話題などを松井代表がアップした。
・参加募集の告知については、県生涯学習センター、四国環境パートナーシップオフィス(四国 EPO)の ML や HP に情報提供し発信を依頼した。チラシはまつやま NPO サポートセンター、都市環境学習センター、県生涯学習センターなどに設置した。 以上